

平成28年度 学校評価 教職員自己評価結果

4…達成された 3…ほぼ達成された 2…あまり達成されていない 1…達成されていない
(4点) (3点) (2点) (1点)

学校経営

1. 学校の教育目標や重点目標を意識した教育活動に取り組むことができた。

4	3	2	1	無	平成28年度	平成27年度	平成26年度
3	8	0	0		3. 27	3. 17	3. 27

2. 学年・学級の経営計画に則り、具体的に実践することができた。※担任のみ

4	3	2	1	無	平成28年度	平成27年度	平成26年度
3	5	0	0	3	3. 38	3. 38	3. 43

《特記事項》

- 重点目標についての各学年や各行事などの取組内容の可視化を図り、評価・改善に生かせるようにしたい。

《分析・考察・改善》

<分析・考察>

- ・昨年度と同程度の評価結果であり、学校経営計画に基づき、概ね適切な学校経営や学級経営を推進することができた。

<改善案>

- ・学力や体力の向上、豊かな心の育成に向けて、児童の実態から課題や重点を明確にし、具体的な改善策について職員をはじめ、保護者や地域の方と共有し、連携を一層図りながら一体感のある取組を推進する。
- ・学校の重点目標の達成を目指した一体感ある学校運営を推進するために、学級経営計画や諸行事の実施計画に、重点目標達成のための取組を入れ、評価改善に努める。

組織運営

1. 校務の運営については、その職務や機能を十分に果たすことができた。

4	3	2	1	無	平成28年度	平成27年度	平成26年度
2	9	0	0		3. 18	3. 42	3. 36

2. 分掌組織の業務内容が明確になっており、分掌内の業務は適切であった。

4	3	2	1	無	平成28年度	平成27年度	平成26年度
3	8	0	0		3. 27	3. 25	2. 91

3. 諸会議・各部会等は、効果的・効率的に行なうことができた。

4	3	2	1	無	平成28年度	平成27年度	平成26年度
0	11	0	0		3. 00	3. 58	3. 18

《特記事項》

- 全てにおいて時間を守ることを大切にしていきたいと思います。
- 放課後学習や放課後遊び、学級事務などの時間確保するために、会議の削減と長期休業中や終始業式を利用した会議日の設定を図りたい。

《分析・考察・改善》

<分析・考察>

- ・「1. 校務の運営」と「3. 諸会議・各部会の効果的・効率的実施」で下がっている。学力・体力向上やいじめ防止、新しい教育への対応など、学校全体での連携した取組の充実には意思疎通の時間確保が重要であるが、学級事務や授業準備など勤務時間内では終わらない現実もあり、校務の効率化や精選が課題となっている。

<改善案>

- ・職員会議の効率的な実施と長期休業中の諸会議の実施を一層図っていく。
- ・学力向上委員会の機能化を図り、学校全体での一体感のある組織的な取組を推進する。さらに、地域の人材活用や学習及び図書ボランティアなど、保護者の支援・協力のお願について情報発信していく。

教育課程

1. 学習指導要領の趣旨を踏まえ、子どもの実態を反映した特色ある教育課程が編成された。

4	3	2	1	無	平成28年度	平成27年度	平成26年度
1	9	1	0		3.00	3.08	3.18

2. 地域の素材（人材・自然、施設など）を活用し、学習の充実を図ることができた。

4	3	2	1	無	平成28年度	平成27年度	平成26年度
4	5	2	0		3.18	3.00	3.42

《特記事項》

- 書き初め、野鳥についてなど、外部講師によって専門的な学習を行うことができた。
- 日課表を見直し、朝学習の充実が図られるようにしたい。
- S日課（朝学習カット）をできるだけ使わない方向での時数確保が必要である。

《分析・考察・改善》

<分析・考察>

- ・「特色ある教育課程の編成」は0.08ポイント下がり、「地域の素材（人材・自然・地域など）の活用の充実」については微増であり、どちらの項目も「2」を選択した職員がいるなど、依然と課題が見られる。総合的な学習の時間の年間計画が見直され、地域の人材等の活用が図られてきているが、更に充実を図る必要がある。

<改善案>

- ・S日課の内容を「朝学習・朝読書のカット」から「清掃時間のカット」に改め、午前中の日課は変更しない。
- ・地域に開かれた授業づくりに向けて、地域との連携を一層図り、地域の人材や学習ボランティアの活用が図られるよう努める。そのために、教育計画への位置付けを一層図り、学習ボランティアについても保護者等に依頼し、人材確保に努める。

特別支援教育

1. 特別な支援を必要とする児童に対応した具体的な手立てを推進することができた。

4	3	2	1	無	平成28年度	平成27年度	平成26年度
3	7	1	0		3.18	3.08	2.80

2. 校内支援委員会の機能を生かすことができた。

4	3	2	1	無	平成28年度	平成27年度	平成26年度
3	7	1	0		3.18	3.42	2.80

3. 特別支援教育についての実践的研修をすることができた。

4	3	2	1	無	平成28年度	平成27年度	平成26年度
5	5	1	0		3.36	2.83	2.50

《特記事項》

- ・・・先生が出された資料、研修会は参考になった。
- ・・・先生による研修がよかった。次年度もお願いしたい。
- もっと支援してあげたい児童はたくさんいるが職員の数に限りがあり難しい。通級指導を増やしたくても増やすことができない。
- 個別の指導計画について記述や保護者の理解などについて家庭訪問前に一度職員で共通理解が図れるようにしたいです。

《分析・考察・改善》

<分析・考察>

- ・「2. 校内支援委員会の機能を生かす」は、昨年度より下がったが、「3. 特別支援教育についての実践的研修」は研修の充実が図られ0.53ポイント上がり改善傾向が見られる。いずれの項目も「2」を選び、課題を感じている職員がいる。

<改善案>

- ・平成29年度、より保護者の意向に沿った支援が実施できるよう、個別の指導計画の様式を一部変更するとともに、指導計画づくりについての研修を実施する。
- ・個に応じた指導を充実させるための人材の確保に努めるとともに、組織的な指導体制の見直しにより、複数の教員による指導時間を増やすようにする。

学習指導

1. 基礎的・基本的事項を明確にした指導計画を立てることができた。

4	3	2	1	無	平成28年度	平成27年度	平成26年度
1	9	1	0		3.00	3.42	3.30

2. 個に応じた指導に努め、学力の向上を図ることができた。

4	3	2	1	無	平成28年度	平成27年度	平成26年度
2	7	2	0		3.00	3.00	3.10

3. 少人数指導を積極的に活用することができた。(2年生以上)

4	3	2	1	無	平成28年度	平成27年度	平成26年度
7	3	0	0	1	3.36	3.36	3.11

4. 放課後学習、長期休業中の補習、学力テスト問題・チャレンジテストの活用等に取り組むことができた。

4	3	2	1	無	平成28年度	平成27年度	平成26年度
8	2	1	0		3.64	3.42	3.50

《特記事項》

- 22人と少人数ではあるが、一人一人に対応できる十分な時間はとれない状況にある。放課後学習は下校が15:30となっているのでほぼできない。日没が早くなる時期は全くできない。
- 現状ではこれ以上の時数はむずかしい。決められた範囲の時間での工夫が必要。学級の実態も考慮して習熟か少人数のやりかたも工夫がいる。
- 少人数指導のメンバーは定期的に入れ替えたらいと思う。(担任の見取りや児童の意欲喚起のためなど)

- 低中高ブロック毎に合同学習を行ったり、教科担任制を導入したりして、学習形態や指導体制を工夫することにより、担任の負担軽減と子どもの学習意欲喚起が図られるとよい。

《分析・考察・改善》

<分析・考察>

- ・「1. 基礎的・基本的事項を明確にした指導計画を立てる」「2. 個に応じた指導に努め、学力の向上を図る」については、「2」を選択した職員がいるなど、依然として課題が見られる。記述にある放課後学習の実施時間や学習意欲向上の図る指導体制については改善が必要である。

<改善案>

- ・「基礎的・基本的事項を明確にした指導計画」については定着を図らなければならない課題を明確にし、その定着を図る指導計画（取組）を学力向上推進委員会が立てて、取組の評価と改善を推進する。
- ・高学年の放課後学習の時間の確保については、5時間授業の日に放課後学習を実施するよう計画を見直す。
- ・補充学習の充実を図るため、日課表を見直し、朝学習・朝読書の時間を5分長くし15分間にする。（登校時刻を5分早めて8：05とする。）
- ・45分間の授業時間がしっかり確保できるよう、学習規律の徹底を図るとともに、教師自ら時間の厳守に努める。
- ・記述にある合同学習や教科担任制については、導入できるところから実施するなど、推進していく。

道徳指導

1. 道徳の時間の授業の充実に努めることができた。

4	3	2	1	無	平成28年度	平成27年度	平成26年度
4	7	0	0		3.36	3.18	3.25

2. 外部講師や「私たちの道徳」などの活用により指導法の工夫を図ることができた。

4	3	2	1	無	平成28年度	平成27年度	平成26年度
2	9	0	0		3.18	3.09	2.92

《特記事項》

- 「私たちの道徳」の活用に努めた。
- 道徳の学習会はとても有効であった。
- 「私たちの道徳」の活用以上に教科化や授業づくりに向けた取組が必要と思う。
- 平成30年の教科化に伴い、評価の在り方について学習会を行ったり、年間指導計画を作成したりしていかなければならない。
- 家庭との連携についても、学校としてどんなことをやっていくのか共通理解が図られるとよい。

《分析・考察・改善》

<分析・考察>

- ・2つの項目で昨年を上回っているが、平成30年度の「教科化」に向けて研修を行うなど、道徳指導の推進を図り、地域や家庭との連携も図っていく必要がある。

<改善案>

- ・今年度同様、校内研修に「道徳」を位置付け、全学級で授業を公開し合い、授業力の向上を図る。
- ・道徳アンケートの結果などから、子どもの実態について地域や家庭と課題を共有し、連携した取組ができるように情報発信に努める。

特別活動

1. 児童の発想や創意を生かした自主的な児童会活動であった。

4	3	2	1	無	平成28年度	平成27年度	平成26年度
1	8	2	0		2.91	2.83	2.92

2. 話し合いや活動の過程を重視した学級活動になっていた。

4	3	2	1	無	平成28年度	平成27年度	平成26年度
0	9	2	0		2.82	2.64	2.81

3. 学校や地域の特性および児童の実態を生かした学校行事を創造することができた。

4	3	2	1	無	平成28年度	平成27年度	平成26年度
2	8	1	0		3.09	3.25	3.00

4. クラブ活動は児童の興味・関心や実態を考慮し適切な計画・運営であった。

4	3	2	1	無	平成28年度	平成27年度	平成26年度
4	7	0	0		3.36	3.33	3.09

《特記事項》

- 保体委員会は毎年行っている者が主体となり、先生も子どもも新しい発想という点では工夫が足りなかった。学級会の話し合いは旧学年の流れで進めることが多く話し合いのルールなどを確立するべきだった。
- 児童集会は月曜日にあったが土日ははさむと準備が大変なので木曜日設定するとよい。
- もう少し児童会の時間がほしいです。
- 話し合い活動の充実のためにも意識して学級会を設定していく必要があると思う。
- クラブではアウトリーチの活用などを積極的に図り充実した内容にしていくとよい。
- 児童会活動の時間を確保し、充実を図ることで育つ子も多いと思う。

《分析・考察・改善》

<分析・考察>

- ・「1. 自主的な児童会活動」と「2. 話し合いや活動過程を重視した学級活動」については、改善傾向が見られるが依然と課題として感じている職員が多い。記述より、児童会活動の回数増と学級会での話し合い活動の充実を図っていく必要がある。
- ・学校規模や地域の特性及び児童の実態を生かした学校行事については、全校児童の一体感、学校と保護者・地域との一体感をより高めるために改善を図る必要がある。

<改善案>

- ・児童会活動については必要な回数を確保し、児童の主体的・計画的な取組を促し、子どもの頑張りや活躍が認められるよう改善していく。
- ・学級活動についても、学級の問題解決などについて計画的に話し合いを実施するなど、計画の見直しを図っていく。
- ・子ども同士の一体感、学校と保護者・地域との一体感を高めるために、縦割り活動や全校合唱の取組、運動会種目の見直しなど、改善を積極的に図っていく。

総合的な学習の時間

1. 地域の素材や人材の育成の有効な活用を図り、授業の充実に努めた。

4	3	2	1	無	平成28年度	平成27年度	平成26年度
3	7	1	0		3.18	2.73	3.25

《特記事項》

- 認知症サポーターズキッズは福祉学習を進める上で効果的であった。
- 3年生の外部講師によるふれあいの林の学習に参加させてもらったが（はまなす学級においても）有意義な学習できた。
- より一層、地域の人材を活用していくとよいと思う。
- 年間計画に基づいて実施し、授業記録・資料を引き継げるようにしたい。
- 担任によって実施内容にばらつきがでないように、地域教材（人・物・自然）の活用については教務が中心となって推進していただくと助かります。

《分析・考察・改善》

<分析・考察>

- ・昨年度、「総合的な学習の時間」の年間指導計画を改善し、各担任が計画に沿って地域素材や人材の活用を図ったので改善傾向が見られる。今後も教務が中心となって実践記録や実戦資料を蓄積し、計画の改善を図っていく必要がある。

<改善案>

- ・総合的な学習の時間において身に付けさせるべき資質・能力を育むため、單元ごとの指導計画を見直し改善する。特に、5年生の福祉教育については、地域の人材や施設の活用を図った体験的な学習となるよう改善していく。

生徒指導

1. 日常生活の中で児童理解を深める工夫や配慮がなされた。

4	3	2	1	無	平成28年度	平成27年度	平成26年度
3	6	1	0		3. 20	3. 08	3. 17

2. 非常時における安全指導の徹底に努め、安全意識を高めることができた。

4	3	2	1	無	平成28年度	平成27年度	平成26年度
4	7	1	0		3. 36	3. 00	3. 27

3. 全教職員による共通理解のもとに、教育相談体制を確立することができた。

4	3	2	1	無	平成28年度	平成27年度	平成26年度
2	9	0	0		3. 18	3. 42	3. 27

4. 問題行動やいじめの早期発見を含め、迅速かつ適切な指導を図ることができた。

4	3	2	1	無	平成28年度	平成27年度	平成26年度
5	5	1	0		3. 36	3. 33	3. 50

5. 家庭・地域・関係機関との連携を図ることができた。

4	3	2	1	無	平成28年度	平成27年度	平成26年度
2	8	1	0		3. 09	3. 17	2. 92

《特記事項》

- 部長としては最低限のことしかできていないかもしれないが、管理職の力も借りながら問題行動等には対応することができた。
- 登校していない児童や途中で帰る児童に管理職も積極的に対応してくれて助かった。
- 児童理解については今後も課題。
- 学習・生活規律など統合に向けて錦岡小と連携を図っていく必要がある。

《分析・考察・改善》

<分析・考察>

- ・「3. 教育相談体制を確立」で若干下がっている。教育相談は保護者（年3回）や児童（年4回・随時）に今年度も実施したが、事後の適切な対応や職員間の連携を深めていくことが重要である。その他の項目は例年並みで大きな変化は見られない。「2. 非常時における安全指導」の項目で改善傾向が見られるのは、新たに「休み時間の避難訓練」を実施したためと考える。

<改善案>

- ・次年度も教育相談を丁寧を実施し、その対応について報告・連絡・相談の徹底を図り、全職員で情報を共有しながら指導にあたる。（交流の場の設定）
- ・学習・生活規律の定着に向けて、指導の重点を明確にして各教室に掲示するなど、全職員で指導の徹底を図る。
- ・児童の危機意識や危機対応力を高めるため、予告なしの避難訓練も実施していく。

健康安全指導

1. 性に関する指導を通じて、生命の大切さに気付かせることができた。

4	3	2	1	無	平成28年度	平成27年度	平成26年度
5	5	1	0		3. 36	3. 33	3. 50

2. 日常的に体力づくりを行い、体力向上を図ることができた。

4	3	2	1	無	平成28年度	平成27年度	平成26年度
4	7	0	0		3. 36	3. 25	3. 50

3. 心身の健康を保つため、自らの健康管理を行うよう働き掛けた。

4	3	2	1	無	平成28年度	平成27年度	平成26年度
2	9	0	0		3. 18	3. 25	3. 33

《特記事項》

- 体力づくりは1期～3期まで子どもたちが意欲的に取り組む姿が見られた。保健便りを活用し具体的な指導をすることができた。
- 性や薬物に関する指導など、教科との関連を考えて見直しを図りたい。
- 性に関する指導については、指導内容の見直しを図る必要がある。

《分析・考察・改善》

<分析・考察>

- ・例年と大きな差はない。「3. 自らの健康管理を行うよう働き掛けた」については、自分の体の様子や体力、生活習慣についての指導、病気やけがの予防、はみがき指導、目の指導、保湿タオル指導など、年間計画に沿って行っているが、下がってきている。

<改善案>

- ・性に関する指導については、児童の実態や教科指導との関連を踏まえて指導内容を改善する。
- ・今年度同様、年3回の体力づくり期間を設定してランニング、長縄、鬼ごっこの取組に加えて、児童が日常的に自ら進んで運動に取り組めるよう、縄跳び検定などの取組を普段の休み時間に実施していく。
- ・健康管理の働き掛けについて、保健主事が中心となり、担任の役割や指導時期を明確にして実施の確認を行うなど、徹底を図っていく。

視聴覚・図書館・掲示教育

1. 視聴覚機器の活用が図られ、視聴覚教育を積極的に進めることができた。

4	3	2	1	無	平成28年度	平成27年度	平成26年度
2	7	2		0	3.00	3.17	3.36

2. 計画的な掲示を行い、校内の美化と環境作りが積極的に進められた。

4	3	2	1	無	平成28年度	平成27年度	平成26年度
2	9	0	0		3.18	3.17	3.18

《特記事項》

- 玄関前の掲示板が計画的に掲示されていてとてもよかった。
- 児童の図書館利用が活発でよい。(図書館に関する評価項目があってもよい)
- 1 自分が苦手なので積極的にできなかった。
- 2 常に子どもの作品が掲示され、やる気につながる環境であったと思う。
- ICT(情報通信技術)を活用した学習がさらに推進できるよう必要な教材を整備する。
- 教育目標や学習規律など、教室の掲示物の統一が図られるとよい。

《分析・考察・改善》

<分析・考察>

- ・「1. 視聴覚機器の活用」については、書画カメラが各教室に入り活用が図られているが、評価点が下がってきている。機器の有効利用に努めるとともに、その他の機器の整備も含め、活用しやすい環境を整えていく必要がある。
- ・掲示教育については、例年と変わらないが、保護者アンケートに記述されていたとおり、古くなった掲示物のリニューアルは大切である。

<改善案>

- ・日常的に視聴覚機器を活用した授業が行えるよう、指導方法を工夫するとともに、活用しやすい環境を整備する。
- ・教室掲示については、どの教室にも掲示すべきものを確認し統一する。廊下掲示については、今後も学習意欲の向上につながる掲示に努めるとともに、各学年の学習事項の定着に資する掲示を行っていく。

研究・研修活動

1. 研究主題をふまえ、実践に努めてきた。

4	3	2	1	無	平成28年度	平成27年度	平成26年度
3	8	0	0		3.27	3.58	3.36

2. 学級・学年・ブロックの研究協力体制が充実していた。

4	3	2	1	無	平成28年度	平成27年度	平成26年度
4	7	0	0		3.36	3.33	3.18

3. 研究会や講習会への案内・参加は、適切に実施された。

4	3	2	1	無	平成28年度	平成27年度	平成26年度
6	5	0	0		3.55	3.42	3.36

《特記事項》

- ブロック研で協力してもらったことが公開研で生かすことができた。
- 重点を意識した授業づくりが各学年で行われたと思う。

《分析・考察・改善》

＜分析・考察＞

- ・授業改善に向けた校内研修と校外研修に積極的に取り組んできたことが、よい評価につながっている。

＜改善案＞

- ・新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善に向け、全学級で授業公開し合い、指導力の向上に努める。
- ・道徳科の実施に向けて、研修の充実、保護者・地域への情報発信に努める。

施設・設備

1. 校舎内外の施設・設備、教材教具等の点検や維持整備が適切に行なわれた。

4	3	2	1	無	平成28年度	平成27年度	平成26年度
1	9	1	0		3.00	3.08	3.17

2. 普通教室・特別教室及び体育館の整備が適切であった。

4	3	2	1	無	平成28年度	平成27年度	平成26年度
0	9	2	0		2.81	3.17	3.17

《特記事項》

- 遅くまで暖房が入り、仕事がしやすくなった。
- 統合に向けて教材教具・備品の整理整頓、廃棄が必要ですね。

《分析・考察・改善》

＜分析・考察＞

- ・学校施設の老朽化に伴う営繕や教材教具の整備、特別教室の整備などに課題がある。

＜改善案＞

- ・英語学習室の環境を整備し、学習環境を整える。
- ・統合に向けて教材教具等の整理、廃棄を実施する。
- ・職員玄関のオートロック化に向けて、児童玄関の施錠管理の徹底を図る。
- ・毎月の安全点検日及び日常点検により施設・設備の点検し、必要な営繕・補修を行う。

PTA・地域

1. P T A活動の活性化を図ることができた。

4	3	2	1	無	平成28年度	平成27年度	平成26年度
0	11	0	0		3.00	2.42	2.42

2. 保護者や地域、関係機関と連携・協力することができた。

4	3	2	1	無	平成28年度	平成27年度	平成26年度
0	10	1	0		2.91	3.08	2.67

《特記事項》

- 街頭指導にはたくさんの方が協力してくれた。
- 地域安全ボランティアの人員と連絡先を把握し、臨時休校時の緊急連絡などできるようにする。

《分析・考察・改善》

＜分析・考察＞

- ・「1. P T A活動の活性化」については、あんしん安全マップの改訂版の作成やP T A学習会の実施など、新規の活動もあり、職員の意識としては過去3年の中では最も評価点が高く改善傾向が見られる。「2. 保護者や地域、関係機関と連携・協力」については、記述にある緊急時の連絡体制や学習・生活習慣づくりに向けた取組など、保護者や

地域との連携を更に深める必要性を感じている職員が多いという結果がでている。

<改善案>

- ・学校が保護者や地域に協力してもらいたいことや保護者や地域が学校にもとめていることなど、思いや願いを把握したり、互いに交流し合ったりする機会を増やしていく。具体的には、学校改善プランなどについて説明会を実施したり、地域参観日を実施して意見や感想を聞く機会を作ったり、学校関係者評価委員会の機会をさらに活用できるように改善を図ったりしていきたい。
- ・学習や図書ボランティア等の呼び掛けを行い、「朝の読みきかせ」や「教科の実技指導」などに協力をいただいたり、地域の施設や敬老会などとの連携を図り福祉教育の充実を図ったりする。
- ・スマホや携帯の使い方など、PTAによる学習会を開催し、明德小PTAとしてのスタンダードを話し合ったりする。

《その他の課題、改善策、自由記述》

- ・山ほどある業務を精査して仕事のスリム化を図り、子どもと向き合う時間をもっと確保できないだろうか。
- ・アンケートは必要最小限にとどめたい。しかも評価作業期間に集中しすぎている。児童アンケートの項目に「先生は話しやすいですか」とあるがねらいは何かわからない。
- ・パソコン評価作業になり、学校内で作業することが前提になったこともあるので学期末に評価作業日がほしい。
- ・支援員さんやTTの先生など、とにかく職員が増えてほしいです。



<分析・考察>

- ・社会の変化に伴い、学校教育に求められることが増し、教職員の多忙感は強まる一方である。教職員のメンタルヘルスのためにも、様々な人材の活用を図り、チーム学校として学校・家庭・地域が役割を分担し、連携した取組ができるよう協力体制を強化していくことが重要である。

<改善案>

- ・精選できる業務はスリム化を図り、業務遂行に必要な時間については勤務時間に確保していく。
- ・学校課題や各学年の課題解決に向けて職員の連携・協働を一層図り、組織的な対応に努めるとともに、保護者や地域との連携・協力体制についても強化していきたい。